

1月のテーマ

『GIGA スクール構想の疑問点・不安なこと』について

- 1 自己紹介とご自身やお子さんの ICT 活用について
(エピソードなど)



- 2 三吾小の GIGA スクール構想の現状

GIGA (= Global and Innovation Gateway for All) スクール構想

子どもたち一人に1台のタブレット端末等と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたち一人一人の資質・能力を確実に育成できる教育 ICT 環境を実現するための構想。墨田区では、この1月から全児童・生徒に iPad の配布が始まっている。

○平成30年度・令和元年度墨田区学校 ICT 化事業タブレット端末活用モデル校

- ・墨田区立小学校の代表として、学校に240台（各学年40台の計算）の iPad、通信環境も整備された
- ・2年間、授業に積極的に活用を図り、学力の向上を目指す研究を実施。専門の大学准教授や講師に指導をいただいた。
- ・子どもたちは、タブレット端末の扱いに慣れ、学習に自然に使用できるようになった。それは特別なものではなく、「鉛筆」「ノート」「消しゴム」などの学習道具の一つとして、使うようになったことを意味する。
- ・教員としては、授業の仕方、準備、評価の仕方に変化が見られた。
- ・令和2年1月21日に広く都・区の教員向けに研究発表会を実施。全国から多くの教員が参加。

○「GIGA スクール構想」とは？

- ・OECD PISA 2018の結果「日本の高校生の読解力に有意な低下が認められた」
- ・原因は「日本の子供たちがコンピュータを使用しての解答そのものに不慣れだった？」
- ・日本の子供たちはオンラインゲームやチャットに ICT 機器を使用するのは OECD 加盟国のトップであるにもかかわらず、学校や家での学習にコンピュータを使う頻度では、加盟国中、ダントツの最下位だった
- ・令和元年12月 萩生田文部科学大臣「令和元年度の補正予算案で、一人1台の端末と、通信ネットワークのインフラ整備のための経費を盛り込んだ」「この機を逃すことなく、関係者が



一丸となって、子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育、ICT環境の実現にとりくむよう訴える。」

3 疑問点・不安に思っていること

4 『スマホ脳』(アンデシュ・ハンセン著 久山葉子訳 Anders Hansen 2019 新潮新書)

アンデシュ・ハンセン＝スウェーデンで今もっとも注目されているメンタルヘルスのインフルエンサー、精神科医。

「人類が地球上に現れてから99.9%の時間を、人間は狩猟と採集をして暮らしてきた。私たちの脳は今でも当時の生活様式に最適化されている。脳はこの1万年変化していない—それが現実」
「この10年の人類の行動変容！つまりコミュニケーションや互いを比べ合う手段が変わったのは、あまりにも大きな変化で、想像以上に深刻な影響をもたらすかもしれない。心の不調で受診する人がここ10年、特に若い人の中で著しく増加している。その一因は、デジタル化したライフスタイルにあるのではないか。」特に、SNS (Facebook, Instagram、日本ならLINE など) の影響について危惧している。

○ジャスティン・ローゼンスタイン Facebook社で「いいね！」を開発した人物

「SNSの依存性はヘロインにも匹敵するもの。自分では利用時間を制限しているし、自分の子どもにはスマホの使用時間を制限し、(そのための)アプリもインストールしてある。」

○スティーブ・ジョブズ iPadやiPodの開発者。

自宅の壁にはスクリーンやiPadで埋め尽くされているのでしょうか？ディナーに訪れたゲストにはお菓子の代わりにiPadを配るんですか？とインタビューされた時の答え

「iPadはそばに置くことすらしていない。自分の子どもには使わせない。10代の子どもには、使用時間を厳しく制限している。」

○ビル・ゲイツ Microsoft社 Windowsの開発者

「14歳になるまで、子どもにはスマホは持たせなかった。」

○チャマス・パリハピティ 元Facebook社副社長

「SNSが人々に与えた影響を悔いている。私たちが作り出したのは、短絡的なドーパミンを原動力にした、永遠に続くフィードバックのループだ。それが既存の社会機能を破壊してしまった。」

○ショーン・パーカー Facebook社初代CEO

「我々は、人間の心の脆弱性を利用した。」 元日の主要新聞に掲載された広告(1.1.2021)

